日刊 動労千葉

83. 7. 14

No. 1390

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

権力・当局の弾圧を粉砕し反合―三里塚決起へ

七月二日、国鉄当局は、去る三月の国労鹿児島地本の出改札業務民託強行実施反対闘争に対し、懲戒免職八名、停職（十二ヵ月～一ヵ月）四七名を含む七四五名、更に国労が三月十五日から三日間たたかいぬいた入浴反合順法闘争に対し（国労千葉地本も含む）停職三ヵ月一〇名を含む一四四八名、合計二一九三名にもおよぶ大量不当処分を発表した。

更に、七月七日早朝、千葉県警（佐倉署）は、「三里塚・パイプライン粉砕のゲリラ闘争」に関連する全国百カ所をこえる一連の不当捜索攻撃の一環として、動力車会館を大量の機動隊で包囲した上で、全く不当・不法な家宅捜索を強行してきた。これら軌を一にした攻撃は、この間の三里塚・国鉄を軸とした日本の階級闘争の不屈の前進―高揚に恐怖する中曽根を先頭とした国家権力・国鉄当局の焦りにみちた絶望的な弾圧攻撃である。いまこそ、反処分・反合・反戦・三里塚闘争の爆発でこれらの攻撃を粉砕しなければならない。

国鉄労働運動の不屈の前進きりひらいた入浴・反合決起

国労鹿児島地本への大量処分攻撃は、一地方本部としては、国鉄労働運動史上類例のない、また全国的にもマル生闘争時（一九七一年春闘に対する全国で公労法による解雇二八名）以来の重い不当処分である。

今回の大量処分は、極めて不法・不当であるとともに、国鉄労働者の不屈の入浴・反合・順法闘争に対する、政府・国鉄当局の恐怖にかられた報復的弾圧処分である。

国労鹿児島の労働者は、この三月、鹿児島鉄局の団体交渉の一方的打ち切り＝民間委託の強行実施に対し、西都城、山川、南宮崎など七駅の現場で約二週間にわたって強行実施に対する実力阻止闘争に決起し、ついに当局による機動隊導入による弾圧をはねのけ、不屈にたたかいぬいた。また、三月順法闘争を運休三二九本、遅延九二〇九本、影響一七七万人と、動労千葉の一九七七年「三里塚・ジェット百日間闘争」以来の大爆発をとげた。

さらに入浴闘争は、国労門司、東京、大阪などを中心に全国で六ヵ月以上も長期にわたり、当局のロックアウト、賃金カット、処分攻撃をはねかえしてたたかいぬかれた。

多大な血を流しながらも不屈・非妥協に闘いぬかれたこれらの闘いは実に偉大な闘いであり、国鉄労働者の戦闘的伝統と魂を守り発展させ、全国の仲間を鼓舞激励するとともに、敵＝当局、動労「本部」革マルに大打撃を与え、今後の闘いの偉大な展望を切りひらいたのである。

国鉄―三里塚の不屈の前進に恐怖する権力・当局・動労革マル

一方、動労千葉に対する、千葉県警の7・7不当弾圧は、昨年3・27にひきつづく暴挙であり、8・8パイプライン供用開始＝三里塚二期強行着工の切迫化のもとで、いよいよ力強く前進する三里塚闘争を破壊し、また三里塚―労働運動の要をなす動労千葉への路線変更を強要し、組織破壊を狙う悪質な攻撃である。ここでも、動労「本部」革マルは、権力と同一論調をもって動労千葉各組合員宅にビラを送付し、権力のお先棒をかついで組織破壊攻撃にやっきとなっている。

このような、権力・国鉄当局・動労「本部」革マルの弾圧処分・組織破壊攻撃のエスカレートは、戦闘的国鉄労働者の七月入浴闘争への決起―再爆発、動乗勤全面改悪、貨物旅客大合理化攻撃に対する実力反撃を圧殺し、また動労千葉を先頭とする国鉄労働者―全労働者の三里塚闘争への決起、合流を圧殺する予防弾圧である。

だがこれらの未曽有の弾圧は、政府・国鉄当局の強さを意味するものでは決してなく、また、動労「本部」革マルのぜい弱性をさらけだすものとしてある。われわれが、このときに、三里塚反対同盟農民の一八年間の闘い、不屈、非妥協の思想をもって長期強靱にたたかいぬき、中曽根内閣打倒に向け、闘いを発展させるならば、必ず勝利はかちとれるのである。

国労共闘を更に強化し、動労「本部」革マル打倒・一掃を勝とろう

動労「本部」革マルは、「敵の敵は味方」論（国労や動労千葉の敵である権力と当局は、動労「本部」派の味方である、という彼ら自身の位置づけ）をもって、今回の処分・弾圧を歓迎し、一層の警察労働運動への転落を深めている。

「6・12デッチ上げ事件」への「罰金＝有罪判決」を〝勝利〟と叫びたて、当局に「直ちに三君をクビにせよ」と要請するなどどうして許すことができようか。いまこそ政府・国鉄当局・動労「本部」革マル一体となった弾圧処分攻撃をうちやぶり、三里塚―国鉄決戦に総決起し、8・8パイプライン供用開始粉砕・二期工事阻止、千葉市・現地闘争に決起しようではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！